ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie!



イベントに来て下さった皆さんに熱心に活動を説明するスタッフ。(2012)

_ボランティアから見た「緑のサヘル」

「緑のサヘル」でボランティアをしている佐々木と申します。大学 4 年生だった 1992 年からお手伝いさせていただいていますが、当時は「緑のサヘル」も設立されてまだ 2 年目、全てがこれからという若い団体でした。その頃は他の団体のご好意で間借りした机 2 つだけの事務所で、コピーを取りに何度も近くの大学生協まで通ったものでした。また初めて参加したイベントでも、他 NGO が販売しているような洗練された民芸品は並べることが出来ず、売れたのはTシャツー枚のみ、それもスタッフのご親族による購入でした。

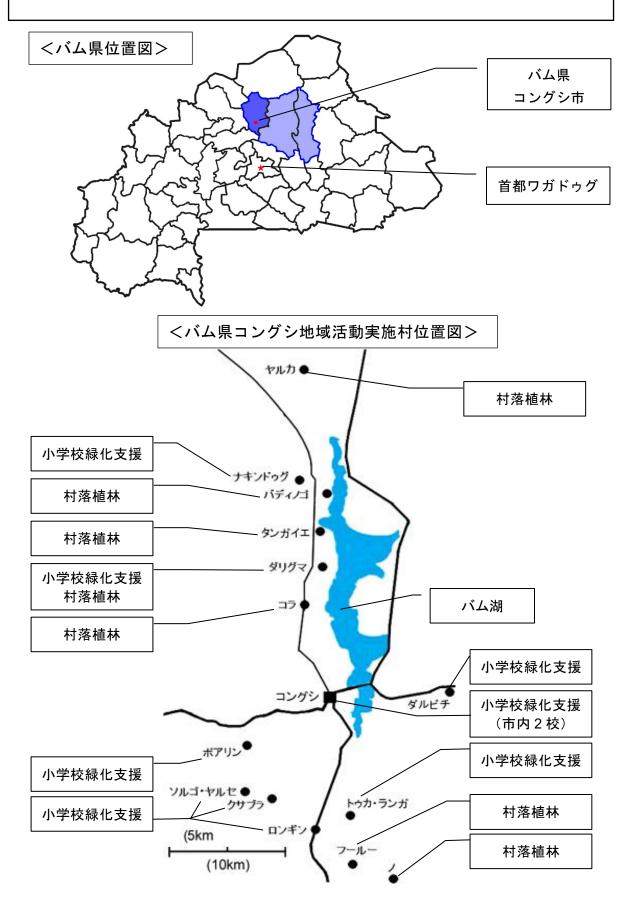
その後、活動が軌道に乗るにつれて、民芸品の品揃えも売り上げも徐々に増えて行きましたが、それよりも印象的に覚えているのは、いつもスタッフの方々が民芸品の陳列そっちのけで、「どうしたら来て下さる皆さんに活動を理解してもらえるのか」と議論している姿、そして実際に活動内容を熱心に伝えようとしている姿です。これまでにイベントでスタッフの話を聞いて海外の支援活動に興味を持ち、その方面に進んでいる方が何人かいらっしゃると聞き、とても素晴らしいことだと思っています。

現在、「緑のサヘル」は神田に間借りではない事務所を構えています。活動は充実し、講演も増えました。法人格を取得して「NPO法人」にもなりました。かつては想像も出来なかったことです。私は「緑のサヘル」の活動を通して繋がっている支援者の皆さんと不思議な縁を感じる時があります。そして、この活動によって生まれる木々が、やがて数十年、数百年という時を経て、現地の方々が「あの木々は日本人と協力して植えたものだ」と話してもらえたら、私たちの体が土に還ってもその「想い」は永久に残ると信じています。

今「緑のサヘル」は新型コロナウイルスの拡大によって、他の団体と同様に活動の縮小を余儀なくされており、関係者の出入りも自粛せざるを得ない状況が続いています。何とか現状を乗り越え、かつてのスタッフの方々や支援者の皆さんが、また気軽に立ち寄れるようになることを祈っています。

東京都青果物商業協同組合 事務部長 佐々木順平

ブルキナファソの活動地域図



ブルキナファソから 1



1 月に軍隊の一部がテロ組織と闘うための充分な装備を求めて決起し、政権を掌握しましたが、その後も武装集団による村落襲撃は止んでいません。昨年 12 月に約 150 万人と目されていた国内避難民ですが、現在は 190 万人を越えたと推定されています。

活動を行なっているコングシ地域では、今のところ大規模な騒乱は起きていませんが、 避難民の流入や帰途が繰り返されており、住民の移動には細心の注意を要しています。協 力団体である AJPEE (環境畜産保全青年協会)による村落や小学校への巡回指導にも支 障が出ていますが、活動は変更や修正を重ねながら何とか進められています。

小学校緑化支援

7月22~23日、2021年度に植林を実施した10小学校に対する「評価調査」が行なわれました。調査団は活動実施地が属するバム県の環境局、教育局、AJPEEの技術者3名で構成されており、各校の苗木残存数、成育度合、潅水作業への参加者数、用具の管理状況等を調査しました。

7月26日には、各校の代表(教師、保護者、 生徒)と省庁関係者が出席する「成績発表会」が 開催され、調査に基づいた成績の発表、慰労表彰 状の授与、植林用具の供与が行なわれました。



各校の皆さんと供与された植林用具。

2021 年度の成績

順	学校名	男子	女子	計	植栽数	評価点
1	セクター 第 1	252	299	551	42	9.13
2	クサブラ	135	169	304	44	8.56
3	トゥカ・ランガ	85	100	185	43	7.73
4	ロンギン	77	95	172	45	6.91
5	ソルゴ・ヤルセ	151	165	316	46	5.60
6	ボアリン	119	142	261	44	5.20
7	ナキンドゥグ	170	186	356	50	4.43
8	リウドゥグ	274	318	592	45	3.26
9	ダリグマ	130	118	248	47	3.13
10	ダルビチ 第2	133	150	283	44	3.04
_	計 10 校	1,526	1,742	3,268	450	

昨年からの水不足と治安悪化による登校率の低下によって、苗木の残存率が 68%に留まる等、成績は例年と比べて全体的に低めでした。それだけに、初めて参加したセクター第 1 小学校の頑張りが際立つ結果となりました。尚、現在は既に 2022 年度の植林が始まっており、次号で詳細を報告させていただく予定です。

ブルキナファソから 2



● 村落植林

村落植林の場合、地域の中心にあるバム 湖の畔に植林地が設置されていることが多 く、小学校での植林ほどは雨の影響を受け ません。それでも乾季には潅水が必要にな る時期があり、その期間の頑張りが苗木の 活着や成長に直結してしまいます。

治安に対する懸念は小学校植林と同様ですが、昨年11月に植栽した苗木5,290本中、今年6月時点で5,032本が残存しており、各村の努力が伺われます。



乾季の潅水は苗木の成長に直結します。

植栽苗木の残存状況

村名	サイト	植栽数	残存数	残存%	潅水参加者		
13 to					男	女	計
バディノゴ	1	840	795	94.6	0	4	13
コラ	1	840	790	94.0	8	6	14
 ダリグマ	1	840	805	95.8	7	6	13
9924	2	840	780	92.9	10	5	15
ヤルカ	1	840	822	97.9	11	9	20
12/0/3	2	840	817	97.3	13	6	19
フールー	1	150	135	90.0	6	3	0)
J	1	100	88	88.0	4	4	80
計 10 校	1,526	5,290	5,032	95.1	68	43	111

チャドから



各地で家計が圧迫されています。

農業シーズンは降雨に恵まれましたが、 北部ではイナゴのため500ha以上にわたって、あらゆる種類の農作物が壊滅的な被 害を受けました。また、チャド湖周辺地域 では、武装集団に対する不安によって、一 般家庭の生計が支障を来し続けています。 市場の食料品価格は、燃料不足による輸送コストの上昇、ウクライナ戦争の影響による物流の停滞、季節的な内需等により、急上昇しています。中でもサヘル地域では、ここ5年の平均と比べて70%以上も上昇すると予測されています。

国内活動



長引くコロナ禍によって、活動が事務局内に限定されがちなことには変わりませんが、「三鷹国際フェスティバル」の再開、また現在いくつかご依頼いただいている対面での講演等、少しずつではありますが、人と直接触れ合うことが出来る機会が増えて来ました。

< 国内の主な活動一覧 >

5月 27日(金) 「2021年度活動紹介」(A4版)作製 6月 1日(水) ピースボート・オンライン勉強会 世界を学ぼう「アフリカに緑のサヘルを」講師 15日(水) 「ニュースレター No.90」発送開始 7月 8日(金) 「三鷹国際交流フェスティバル」出展申請

ピースボートとの協力

6月1日(水)、当団体の菅川が、NGO「ピースボート」が行なうオンライン勉強会の講師を 務めました。「ピースボート」は国際交流と理解を目的に 1983 年に設立された団体で、1990 年以降は世界各地を巡る「地球一周の船旅」の実施で知られています。

オンライン勉強会は一般を対象に毎週 1 回行なわれており、全国から 60~100 人の参加者を得ています。今回は 6 月 17 日が「砂漠化および干ばつと闘う国際デー」であることから、当団体が講師を務めることになりました。当日は 19:00 より講義を開始し、講義後には参加者の皆さんからの質問にお答えする等しました。

オンラインによる講演、講義の経験はありませんでしたが、2月のご依頼以降、数度にわたって スタッフの方が事務所を訪れ、必要な機材やセッティング、また操作方法のレクチャーをして下さ いました。ピースボートの皆さん、本当にお世話になりました。

イベント参加に向けて

「緑のサヘル」は 1991 年の設立以来、国際協力や国際交流のイベントに積極的に参加しており、その回数は延べ 100 回を越えています。



2019年に開催の三鷹国際交流フェスティバル。

こうしたイベントでは一般の皆さんと直接 触れ合うことが出来、現地や活動の状況を知 ていただける貴重な場となっています。

残念ながら、ここ2年は新型コロナ禍によって中止が相次いでいましたが、今年は「三鷹国際交流フェスティバル」が再開を決定、当団体にも出展の打診が届きました。

待ちに待った屋外イベントで、スタッフー 同、大いに張り切っています! 出展の様子 は次号でご報告させていただきます。

事務局より



2023 年カレンダー販売開始!!

早いもので、今年もあと3か月を残すのみとなりました。そろそろ来年のカレンダーの ご準備をしませんか? 例えば「緑のサヘル オリジナル・カレンダー」はいかがでしょう か? 「2023年カレンダー」も世界各国で人々の暮らしを撮り続ける写真家・小松義夫 氏と、旅行人・編集長の蔵前仁一氏にご協力いただき、素敵なカレンダーになりました。



普段は遠くて、意識することが少ない西アフ リカ。きっとこのカレンダーによって、その距 離が縮まり、そこに暮らす人々や生活が身近に、 そして愛おしく感じられることでしょう。

このカレンダー1冊で苗木10本を植えるこ とができます。ぜひカレンダーのご購入で国際 協力を! 同封のカレンダーチラシまたはメ ールにてお申込み下さい。(発送開始は 10 月 末からを予定しています)

サイズ: A4 変形(広げた時 A3 変形) 印 刷:オールカラー28 ページ 価格:1部1,200円(税込み)、送料200円(全国一律・何部でも) (緑のサヘル東京事務局) agsi_tokyo@sahelgreen.org

皆様からのメッセージ

オリジナルカレンダーに寄せられたメッセージの一部をご紹介いたします。

- ・素敵な写真、毎月楽しみにしています。 ・毎年、カレンダーを眺めながら、遠い 月の満ち欠けが分かるのもいいです。 日本にいながらにして、遠い異国の子 供たちのことを想像しています。
 - (東京都)
- 昨年からカレンダーを利用しています。 アフリカで暮らす人々の希望のある まなざしが印象的でした。来年も楽し (岩手県) みにしています。
- ・今回で3年目のカレンダーです。毎年 アフリカの子供達のまぶしい笑顔に元 気をもらっています。素敵な写真を有 難うございます。楽しみにしています。 (愛知県)

- 国の人々の暮らしに思いを馳せていま す。友人にも、クリスマス・プレゼン トとして贈っています。 (大阪府)
- 一人一人の優しい心が、アフリカを変 え、地球を変えていく。素晴らしい力 レンダーをありがとうございます。
 - (山梨県)
- それぞれの写真に解説がついているの で勉強になります。何か色々な国を旅 している気分になるので楽しいです。 色々なところで色々な生活があるんだ なと、しみじみ感じて毎月見ています。 (東京都)

皆様からのご感想やメッセージをお待ちしています!



*敬称は略させて頂きました。

【会員の皆さま】

和田隆資/立屋敷哲/菊地滋夫/佐野純子/永井邦子/大池良平綱島孝/佐藤京子/豊島正幸/玉岡昇治/太田弘子/菊地博子/町千恵子

【 ご寄付を頂きました 】

太田有子/矢部弥生/内藤真子/金井晶子/太田宜子/髙橋菜々子玉岡昇治/太田弘子/村山真知子/倉沢昌子/増岡一樹/西村豊子榎本みつ枝/田中順子/及川豊/山本淑子/森田康子/山野上素充加藤治郎/葛原睦子/戎綾子/コーラルハウジング株式会社 石原弘ショファイュの幼きイエズス修道会

Organic,Ecology & FairTrade おいものせなかかみひとねっとわーく京都(事務局)蛯名健仁・加奈子個別教育フォレスト 安多秀司/さぬき眼科 佐貫眞木子

他 匿名をご希望の方 2名

【 古本チャリティ募金を通じてご寄付を頂きました 】

村上和代/氏岡治代/市川信一/浅輪哲司

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

梅田暢子

上記は 2022 年 5 月 1 日から 2022 年 7 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【協力団体・助成団体】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会/トヨタ自動車(株)(公財)毎日新聞東京社会事業団/(株)ブギ/国際ソロプチミスト大阪-中央(特活)環境アリーナ研究機構/(一社)環境メディアフォーラム LIFULL ソーシャルファンディング/アフリカ料理トライブス ソフトバンクつながる募金/(特活)国際協力 NGO センター

【 写真を提供しました 】

(株)金星堂 「英語教材 NHK NEWSLINE 6(仮) 2023年度版」

「緑のサヘル」からお知らせ

● 緑のサヘル報告会 ●

来る11/13、「緑のサヘル報告会」を開催します。事前の予約は必要ありませんので、どうぞ奮ってご参加下さい!

•報告者:菅川拓也 (事務局長)

• 日 時:11月13日(日)

14:00~ (開場13:30)

場 所:いわて県民情報交流センター (アイーナ) 802 会議室

盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
・主 催:緑のサヘル盛岡支部

(お問合わせは 090-9035-1980 齊藤まで)

● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多 くの方々の支えによっ て活動を続けられてい ます。もちろん、いく らからでも OK です。

どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾 分け等々、「緑のサヘル」にお託し下さい! 生徒会や有志による募金も、大事に大事に 使わせていただきます。

● 読み終えた本を送って下さい。

読み終えた書籍を段ボールに詰め、寄付 先を「緑のサヘル」とご明記の上、「古本チャリティ募金」に送って下さい。買取金額 が当団体へのご寄付になります。(ご発送は「元払い」でお願いいします)

送り先

古本チャリティ募金 運営事務局 株式会社ブギ 本棚お助け隊 〒112-0012

東京都文京区大塚 3-42-14 北村ビル1階

TEL: 050-3628-4128 https://hondana.biz

お送りいただける本

専門書、学術書、ビジネス、哲学、語学、資格、 映画、音楽、アイドル、写真集 等

以下は対象外です

- ・定価表示・ISBN バーコードがない本
- ・書き込み、破れ、シミ、臭いのある本
- ・文庫、雑誌、辞典·辞書、教科書、自費出版、非売品、全巻不揃いのコミック等

● 書き損じハガキや未使用 切手を集めています。



国内での活動には、ハガ キや切手も必要です。未 使用の切手は、そのまま 使わせていただきます。

書き損じハガキは、1 枚5円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることが出来ます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

【もくじ】

1…表紙 5…国内活動

2・ブルキナファソ活動地図 6・事務局より

3…ブルキナファソから1 7…ありがとう

4…ブルキナ2・チャドから 8…お知らせ

< 編集後記 >

今号の巻頭文をお書きいただいた佐々木さんは、30年以上にわたってボランティアを続けて下さっています。ボランティアの立場から見て来た「緑のサヘル」の歴史は、事務局にとっても目鱗で、今更ながら感謝の気持ちでいっぱいです。

La Forêt, C'est la Vie!

Vol.91

編集 緑のサヘル 東京事務局 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: http://sahelgreen.org/ E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 NASビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041